

障害者の職場適応支援に関するアンケート調査 － 「職場における実行機能の困難への対処方法に関する調査研究」より －

調査の目的

- 「実行機能」とは、目標に向かって物事を進める際に、計画や段取りを考え、必要に応じて行動や感情をコントロールするための働きのことです。
- 本調査は、職場において業務を進める際に生じる困りごと、特に、仕事の段取りや優先順位の判断、急な変更への対応など、実行機能に関連した困難について、その実態や支援の工夫を把握することを目的としています。
- 本調査研究の成果は、実行機能に困難のある対象者への支援方法検討のための基礎的資料となることが期待されます。併せて、支援者の皆様が現場で活用できるよう、調査研究報告書やパンフレット等にとりまとめ、広く公開する予定です。

回答をお願いしたい方

- 回答時点で企業在籍型ジョブコーチとして1年以上勤務した経験がある方

ご回答に当たってのお願い

- 回答期限は令和8年4月30日(木)です。
- 本調査へのご協力は任意です。すべての質問にお答えいただけなくても、可能な範囲でのご回答でも結構です。
- ご回答いただかない場合や、ご回答の内容によって不利益になることはありません。
- 自由記述欄には、氏名等の個人を特定できる情報や、企業名や支援機関名、地域等の情報は記入しないようお願いいたします。記載されていた場合は、匿名化して処理します。

ご回答及び調査結果の取り扱いについて

- 本調査研究で得られた結果(個人が特定されない形でとりまとめたローデータ及び統計的に分析・集計した結果)は、調査研究以外の目的に使用することはありません。また、関係法令及び当機構の規程に基づいて厳重に管理し、規定の年限が終了した後消去します。
- 本調査研究で得られた結果は、調査研究報告書やパンフレットにとりまとめ公表します。また、その内容を当機構のホームページに資料や動画により掲載したり、学会等で発表する場合があります。その際に、企業名や回答者個人が特定されることはありません。

問い合わせ先

- 調査についてのご質問などありましたら、お手数ですが、下記までお問い合わせください。
独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 障害者職業総合センター 障害者支援部門
担当:宮澤、渋谷、永岡
住所:〒261-0014 千葉県美浜区若葉 3-1-3
電話:043-297-9068、9084、9031 (月～金) 9:15～17:30 Email:hsdiv@jeed.go.jp

問1

(1) 障害者の就労支援の経験年数は何年ですか。 _____ 年

(2) そのうち、企業在籍型ジョブコーチとしての経験年数は何年ですか _____ 年

※複数の職場でのご経験がある場合は、すべての勤務先での期間を合計してお答えください。

また、1年未満は四捨五入してください。

※ここでいう「企業在籍型ジョブコーチ」とは、(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構のほか、厚生労働大臣が定める研修を行う民間の機関において実施された職場適応援助者養成研修を修了した者をさします。

以下では、実行機能に関連する困難について、3つのパターンを示します。それぞれのパターンについて、内容をお読みいただいたうえでご回答ください。

なお、ここで示す3つのパターンは、障害者職業総合センターによる研究成果に基づいて実行機能に関連して職場でみられる行動上の困難を整理・分類したものであり、本人の特性や障害の種類を分類することを目的としたものではありません。

1. 認知面の困難 — 情報を覚えて活用することや、計画的な作業遂行の困難 —

○この困難は次のような機能と関連しています

- ・自発的に課題や活動を始めること
- ・作業を完了するために必要な情報を記憶しておくこと
- ・目標を設定すること
- ・段階を踏んで作業を進めること
- ・作業を実施するための手順を事前に作成すること
- ・作業の実施中や終了後に、ミスがないか確認して評価すること
- ・仕事を整頓し、作業に必要な道具を管理すること

○職場で見られる具体例

- ・清掃作業で手順の見通しが持てず、順序や動き方が効率的でない
- ・衛生基準の理解や保持が難しく、清掃の質にばらつきが出る
- ・備品の不足や破損に気づいても報告や対応が遅れ、業務に支障が出る

問 2 (1) 上記のようなパターンに対する支援を、あなたはどの程度経験したことがありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

(ここでいう「経験」は自分が直接支援した場合だけでなく、職場内で行動を直接見聞きした場合も含まれます)。

1	頻繁に経験した	2	たまに経験した	3	あまり経験しなかった	4	全く経験しなかった
---	---------	---	---------	---	------------	---	-----------

問2(2) このようなパターンに対して支援を実施した場合、改善はみられますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

※比較的協力的な職場での支援を前提に考えてください。

※改善状況については、ご自身が直接見聞きした範囲や、職場内で共有された情報に基づく範囲でご回答ください。判断が難しい場合は「5 わからない」を選択してください。

1	改善がかなりみられる	2	改善がややみられる	3	改善があまりみられない	4	改善がほとんどみられない
5	わからない						



問2(3) 前問で「3 改善があまりみられない」または「4 改善がほとんどみられない」を選択した方に伺います。その理由についてご記入ください。

--

問3(1)あなたは p.2 に示されたようなパターン(認知面の困難)を実際に支援したことがありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

1	ある	2	ない
---	----	---	----



次のページの問3(2)に進んでください



p.8 の問4(1)に進んでください

問3(2) 前問で「ある」と回答した方に伺います。

① 支援にあたって、以下の対処方法について**実施したことがあるものすべて**に○をつけてください
(支援には本人への支援と、周囲や環境への支援の両方が含まれます)。

② ○をつけた対処方法の実施しやすさについて、**当てはまるもの1つ**に○を付けてください。
(「実施しやすさ」には「実施する上での環境的条件」と「方法の取り組みやすさ」の両方を含みます。)

対処方法	① 実施したものに○	② 実施しやすさについて当てはまるもの1つに○			
		実施しやすかった	やや実施しやすかった	やや実施しにくかった	実施しにくかった
1. 気づき(自己や周囲状況の理解)の促進					
2. 本人の状況について、上司・同僚等による理解の促進					
3. 本人のスキル向上の促進					
4. 適応的な行動の確立の促進					
5. フィードバック、面談の実施					
6. 補完方法の活用 (ミスを防ぐための行動や道具の活用)					
7. 環境の構造化(物理面、時間面、作業面)					
8. 知識付与(社会人教育等)の実施					
9. 目標とする行動の明示					
10. 行動の優先順位の明示					
11. その他 (具体的な内容)					



○をつけた対処方法について
次ページの間3(3)に回答して
ください

問3(3) 前問で「やや実施しにくかった」または「実施しにくかった」と回答した対処方法について伺います。
その理由についてご記入ください。

1. 気づき(自己や周囲の状況の理解)の促進

2. 本人の状況について、上司・同僚等による理解の促進

3. 本人のスキル向上の促進

4. 適応的な行動の確立の促進

5. フィードバック、面談の実施

6. 補完手段の活用(ミスを防ぐための行動や道具の活用)

7. 環境の構造化(物理面、時間面、作業面)

8. 知識付与(社会人教育等)の実施

9. 目標とする行動の明示

10. 行動の優先順位の明示

11. その他

問3(4) p.4 の問3(2)①で選択した対処方法にどの程度効果がありましたか。問3(2)①で選択した対処方法に○をつけたうえで、効果について当てはまるもの1つに○を付けてください。

対処方法	問3(2)①で選択したものに○	効果について当てはまるもの1つに○			
		かなり効果があった	やや効果があった	あまり効果がなかった	ほとんど効果がなかった
1. 気づき(自己や周囲状況の理解)の促進					
2. 本人の状況について、上司・同僚等による理解の促進					
3. 本人のスキル向上の促進					
4. 適応的な行動の確立の促進					
5. フィードバック、面談の実施					
6. 補完方法の活用 (ミスを防ぐための行動や道具の活用)					
7. 環境の構造化(物理面、時間面、作業面)					
8. 知識付与(社会人教育等)の実施					
9. 目標とする行動の明示					
10. 行動の優先順位の明示					
11. その他 (具体的な内容)					



○をつけた対処方法について
次ページの問3(5)に回答して
ください

問 3(5) 前問で「かなり効果があった」または「やや効果があった」と回答した対処方法について伺います。
効果を引き出すための要因や工夫についてご記入ください。

1. 気づき(自己や周囲の状況の理解)の促進

2. 本人の状況について、上司・同僚等による理解の促進

3. 本人のスキル向上の促進

4. 適応的な行動の確立の促進

5. フィードバック、面談の実施

6. 補完手段の活用(ミスを防ぐための行動や道具の活用)

7. 環境の構造化(物理面、時間面、作業面)

8. 知識付与(社会人教育等)の実施

9. 目標とする行動の明示

10. 行動の優先順位の明示

11. その他

2. 行動・感情面の困難 – 自分の行動や感情を適切に調整することの困難 –

○このような困難は以下の機能と関連しています

- ・衝動的な行動をコントロールすること
- ・状況に応じて、行動や考え方を柔軟に切り替えること
- ・感情的な反応を適切に調節すること
- ・自分の行動が他人に与える影響を認識すること

○職場で見られる具体例

- ・本人が納得しにくい状況に直面した際、気持ちの切り替えや感情の調整が難しくなり、声が大きくなる、涙が出るなどの反応につながることもある。
- ・不満やストレスを感じた際に、引き出しを強く閉める、大きな独り言を発するなどの行動が無意識に出てしまい、自分の行動が周囲の同僚に不快感を与えていることに気づきにくいことがある。

問4(1) 上記のようなパターンに対する支援を、あなたほどの程度経験したことがありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

(ここでいう「経験」は自分が直接支援した場合だけでなく、職場内で行動を直接見聞きした場合も含みます)。

1	頻繁に経験した	2	たまに経験した	3	あまり経験しなかった	4	全く経験しなかった
---	---------	---	---------	---	------------	---	-----------

問4(2) このようなパターンに対して支援を実施した場合、改善はみられますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

※比較的協力的な職場での支援を前提に考えてください。

※改善状況については、ご自身が直接見聞きした範囲や、職場内で共有された情報に基づく範囲でご回答ください。判断が難しい場合は「わからない」を選択してください。

1	改善がかなりみられる	2	改善がややみられる	3	改善があまりみられない	4	改善がほとんどみられない
5	わからない						

問4(3) 前問で「3 改善があまりみられない」、「4 改善がほとんどみられない」を選択した方にうかがいます。その理由についてご記入ください。

問5(1) あなたは、p.8 に示されているようなパターン(行動・感情面の困難)を実際に支援したことがありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1	ある	2	ない
---	----	---	----



次のページの間 5(2)に進んでください



p.14 の 問 6(1)に進んでください

問5(2) 前問で「ある」と回答した方に伺います。

① 支援にあたって、以下の対処方法について実施したことがあるものすべてに○をつけてください。

(支援には本人への支援と、周囲や環境への支援の両方が含まれます。)

② ○をつけた対処方法の実施しやすさについて、当てはまるもの1つに○をつけてください

(「実施しやすさ」には「実施する上での環境的条件」と「方法の取り組みやすさ」の両方を含みます。)

対処方法	① 実施したものに○	② 実施しやすさについて当てはまるもの1つに○			
		実施しやすかった	やや実施しやすかった	やや実施しにくかった	実施しにくかった
1. 気づき(自己や周囲状況の理解)の促進					
2. 本人の状況について、上司・同僚等による理解の促進					
3. 本人のスキル向上の促進					
4. 適応的な行動の確立の促進					
5. フィードバック、面談の実施					
6. 補完方法の活用 (ミスを防ぐための行動や道具の活用)					
7. 環境の構造化 (物理面、時間面、作業面)					
8. 知識付与(社会人教育等)の実施					
9. 目標とする行動の明示					
10. 行動の優先順位の明示					
11. その他 (具体的な内容)					



○をつけた対処方法について
次ページの間5(3)に回答してください

問5(3) 前問で「やや実施しにくかった」または「実施しにくかった」を選択した対処方法について伺います。
その理由についてご記入ください。

1. 気づき(自己や周囲の状況の理解)の促進

2. 本人の状況について、上司・同僚等による理解の促進

3. 本人のスキル向上の促進

4. 適応的な行動の確立の促進

5. フィードバック、面談の実施

6. 補完手段の活用(ミスを防ぐための行動や道具の活用)

7. 環境の構造化(物理面、時間面、作業面)

8. 知識付与(社会人教育等)の実施

9. 目標とする行動の明示

10. 行動の優先順位の明示

11. その他

問5(4) 問5(2)①で選択した対処方法にどの程度効果がありましたか。問5(2)①で選択した対処方法に○をつけたうえで、効果について当てはまるもの1つに○を付けてください。

対処方法	問5(2)①で選択したものに○	効果について当てはまるもの1つに○			
		かなり効果があった	やや効果があった	あまり効果がなかった	ほとんど効果がなかった
1. 気づき(自己や周囲状況の理解)の促進					
2. 本人の状況について、上司・同僚等による理解の促進					
3. 本人のスキル向上の促進					
4. 適応的な行動の確立の促進					
5. フィードバック、面談の実施					
6. 補完方法の活用 (ミスを防ぐための行動や道具の活用)					
7. 環境の構造化(物理面、時間面、作業面)					
8. 知識付与(社会人教育等)の実施					
9. 目標とする行動の明示					
10. 行動の優先順位の明示					
11. その他 (具体的な内容)					



○をつけた対処方法について
次ページの問5(5)に回答して
ください

問5(5) 前問で「かなり効果があった」または「やや効果があった」と回答した対処方法について伺います。効果を引き出すための要因や工夫についてご記入ください。

1. 気づき(自己や周囲の状況の理解)の促進

2. 本人の状況について、上司・同僚等による理解の促進

3. 本人のスキル向上の促進

4. 適応的な行動の確立の促進

5. フィードバック、面談の実施

6. 補完手段の活用(ミスを防ぐための行動や道具の活用)

7. 環境の構造化(物理面、時間面、作業面)

8. 知識付与(社会人教育等)の実施

9. 目標とする行動の明示

10. 行動の優先順位の明示

11. その他

3. 認知面と行動・感情面、両面の困難

このパターンは、これまで挙げた「行動・感情面の困難」と「認知面の困難」が併存しています。それぞれの困難が相互に影響し合うことで、職場での対応が複雑になる傾向があります。

○職場で見られる具体例

- ・指示を理解できていないにも関わらず、理解しているかのようにふるまいミスを重ねる
- ・実現の難しい高い自己目標を掲げ、現実的な調整が難しい
- ・自分のやり方を優先し、結果として効率が下がってしまう

○参考

行動・感情のコントロールに関連する機能

- ・衝動をコントロールすること
- ・状況に応じて行動や考え方を柔軟に変えること
- ・感情的な反応を適切に調節すること
- ・自分の行動が他人に与える影響を認識すること

認知制御に関する機能

- ・自発的に課題や活動を始めること
- ・作業を完了するために必要な情報を記憶しておくこと
- ・目標を設定すること
- ・段階を踏んで作業を進めること
- ・作業を実施するための手順を事前に作成すること
- ・作業の実施中や終了後に、ミスがないか確認して評価すること

問6(1) 上記のようなパターンに対する支援を、あなたはどの程度経験したことがありますか。当てはまる番号1
2に○をつけてください。

(ここでいう「経験」は自分が直接支援した場合だけでなく、職場内で行動を直接見聞きした場合も含みます)。

1	頻繁に経験した	2	たまに経験した	3	あまり経験しなかった	4	全く経験しなかった
---	---------	---	---------	---	------------	---	-----------

問6(2) このようなパターンに対して支援を実施した場合、改善はみられますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

※比較的協力的な職場での支援を前提に考えてください。

※改善状況については、ご自身が直接見聞きした範囲や、職場内で共有された情報に基づく範囲でご回答ください。判断が難しい場合は「わからない」を選択してください。

1	改善が かなりみられる	2	改善が ややみられる	3	改善が あまりみられない	4	改善が ほとんどみられない
5	わからない						



問6(3) 前問で「3 改善があまりみられない」、「4 改善がほとんどみられない」を選択した方にかがいます。その理由についてご記入ください。

--

問7(1) あなたは、p.14 に示されているようなパターン(認知面と行動・感情面、両面の困難)を実際に支援したことがありますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1	ある	2	ない
---	----	---	----



次のページの間7(2)に進んでください



p.20 に進んでください

問7(2) 前問で「ある」と回答した方に伺います。

- ① 支援にあたって、以下の対処方法について実施したことがあるものすべてに○をつけてください。
 (支援には本人への支援と、周囲や環境への支援の両方が含まれます)。
- ② ○をつけた対処方法の実施しやすさについて、当てはまるもの1つに○を付けてください。
 (「実施しやすさ」には「実施する上での環境的条件」と「方法の取り組みやすさ」の両方を含みます。)

対処方法	① 実施したものに○	② 実施しやすさについて当てはまるもの1つに○			
		実施しやすかった	やや実施しやすかった	やや実施しにくかった	実施しにくかった
1. 気づき(自己や周囲状況の理解)の促進					
2. 本人の状況について、上司・同僚等による理解の促進					
3. 本人のスキル向上の促進					
4. 適応的な行動の確立の促進					
5. フィードバック、面談の実施					
6. 補完方法の活用 (ミスを防ぐための行動や道具の活用)					
7. 環境の構造化(物理面、時間面、作業面)					
8. 知識付与(社会人教育等)の実施					
9. 目標とする行動の明示					
10. 行動の優先順位の明示					
11. その他 (具体的な内容)					



○をつけた対処方法について次ページの問7(3)に回答してください

問7(3) 前問で「やや実施しにくかった」または「実施しにくかった」を選択した項目について伺います。
その理由についてご記入ください。

1. 気づき(自己や周囲の状況の理解)の促進

2. 本人の状況について、上司・同僚等による理解の促進

3. 本人のスキル向上の促進

4. 適応的な行動の確立の促進

5. フィードバック、面談の実施

6. 補完手段の活用(ミスを防ぐための行動や道具の活用)

7. 環境の構造化(物理面、時間面、作業面)

8. 知識付与(社会人教育等)の実施

9. 目標とする行動の明示

10. 行動の優先順位の明示

11. その他

問7(4) 問7(2)①で選択した対処方法にどの程度効果がありましたか。問 7(2)①で選択した対処方法に○をつけたうえで、効果について当てはまるもの1つに○を付けてください。

対処方法	問7(2) ①で選 択した ものに ○	効果について当てはまるもの1つに○			
		かなり効 果があった	やや効果 があった	あまり効 果がなか った	ほとんど 効果がな かった
1. 気づき(自己や周囲状況の理解)の促進					
2. 本人の状況について、上司・同僚等による理解の促進					
3. 本人のスキル向上の促進					
4. 適応的な行動の確立の促進					
5. フィードバック、面談の実施					
6. 補完方法の活用 (ミスを防ぐための行動や道具の活用)					
7. 環境の構造化(物理面、時間面、作業面)					
8. 知識付与(社会人教育等)の実施					
9. 目標とする行動の明示					
10. 行動の優先順位の明示					
11. その他 (具体的な内容)					



○をつけた対処方法について
次ページの問7(5)に回答して
ください

問7(5) 前問で「かなり効果があった」または「やや効果があった」と回答した対処方法について伺います。
効果を引き出すための要因や工夫についてご記入ください。

1. 気づき(自己や周囲の状況の理解)の促進

2. 本人の状況について、上司・同僚等による理解の促進

3. 本人のスキル向上の促進

4. 適応的な行動の確立の促進

5. フィードバック、面談の実施

6. 補完手段の活用(ミスを防ぐための行動や道具の活用)

7. 環境の構造化(物理面、時間面、作業面)

8. 知識付与(社会人教育等)の実施

9. 目標とする行動の明示

10. 行動の優先順位の明示

11. その他

最後に、今回の調査内容や、実行機能に着目した支援について、ご感想やご意見があればお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。